

硬膜外麻酔無痛分娩 説明書

1. 無痛分娩について

お産は強い痛み(陣痛)を伴い、陣痛の痛みを和らげることが目的です。痛みの程度や場所は、分娩の進行度合いによって少しずつ変化します。痛みの感じ方や分娩の進行は一人ひとり異なります。「無痛分娩」と呼ばれますが、痛みが全く無くなるわけではありません。リラックスした状態での分娩を目指しますが、麻酔効果には個人差がありますので、ご理解のほどお願いいたします。

当院での東京都助成金対象の無痛分娩方法は硬膜外麻酔になります。

無痛分娩により痛みは緩和されるメリットがありますが、一方で分娩時間の延長や器械分娩（吸引・鉗子分娩）となる確率が高くなるデメリットもあります。

ご家族や担当医と相談の上で、ご希望があれば32週までにスタッフにお声がけください。

2. 対象者・条件

硬膜外麻酔無痛分娩を希望される妊婦さん

非妊娠時 BMI ～25：無痛分娩施行日までの体重増加が10kg 以内

25～30： 7kg 以内

※硬膜外麻酔無痛分娩を実施できない方

- ・非妊娠時 BMI30 以上
- ・血が止まりにくい
- ・感染の疑い
- ・脊椎・脊髄疾患、脊椎の手術後
- ・早産、低出生体重児などの胎児の未熟性
- ・夜間・休日

3. 方法・スケジュール

【妊婦健診中】

妊娠 32 週までに希望の有無を決定し、医師または看護師にお知らせください。（妊娠 33 週以降の希望は不可となります。）

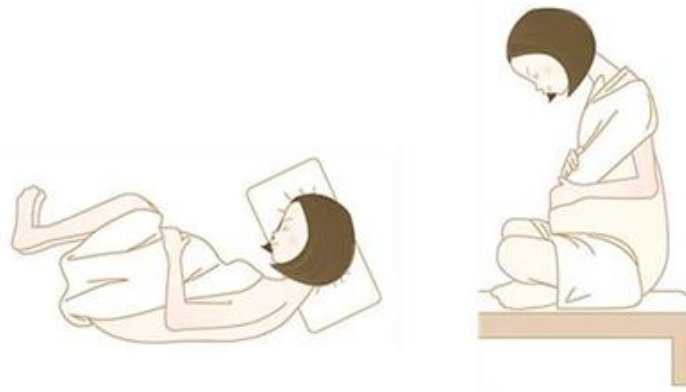
37 週から 41 週での計画分娩となりますが、妊婦健診の際の内診所見で、入院の日にちを決定します。ご希望の日にちでの入院は原則不可です。

【計画分娩の前日（入院日）】

計画分娩を行う前日の午後に入院していただき、無痛分娩に向けた準備（硬膜外カテーテルの挿入、頸管拡張）を行います。

手術室にてベッドに座って（または横向きに寝て）、背中を丸くして、カテーテルの挿入を行います。（図 3）
背中の腰のあたりから、痛み止めの注射をしたのちに、硬膜外腔にカテーテルを挿入します。

子宮口が開いていない場合は、カテーテル挿入後に処置（頸管拡張）を行います。



(図3 麻酔をするときの姿勢(日本産科麻酔科学会 HP より転載))

【計画分娩の当日】

朝から陣痛促進剤の投与を開始します。陣痛促進剤は、分娩監視装置で母児・子宮の収縮の状態を確認しながら、少ない量から開始し、徐々に増加していきます。

子宮口が5-6cm開き、有効な陣痛と判断した場合に、無痛分娩を開始します。硬膜外カテーテルから局所麻酔薬の投与を少量、分割して行い、母児ともに問題なければ、機械を用いて薬剤の継続投与を行います。

投与開始後に麻酔効果が不十分な場合は、カテーテルの位置調整や、再挿入を行う場合があります。

無痛分娩中は、血圧、心拍数、胎児心拍陣痛図などのモニターを付けたままの状態、ベッドの上で過ごします。歩く事はできません。また、尿意も消失することが多いので、適宜、助産師または看護師が導尿を行います。絶食の管理となりますが、お茶やスポーツドリンクなどの水分や飲料ゼリーは摂取可能です。

分娩が終了したら、硬膜外カテーテルからの鎮痛剤の投与は終了します。その後の鎮痛は、内服薬や座薬で対応します。カテーテルは分娩後または翌日の診察時に抜去します。

4. 副作用、起こりうる合併症

○比較的よく起こりやすい症状（通常は無痛分娩が終了すると自然軽快します。）

- ・発熱、かゆみ、背中痛み（おもにカテーテル挿入部）
- ・血圧の低下
- ・局所麻酔薬による神経障害（下肢のしびれや筋力低下）
- ・尿閉（自力で排尿できない）
- ・胎児心拍異常
- ・分娩時間の延長

○時々おこる症状

- ・硬膜穿刺後頭痛（頭痛、めまい、悪心）
- ・局所麻酔中毒（耳鳴り、口唇のしびれ、舌の違和感、けいれん、不整脈）
- ・穿刺部の皮膚・皮下の感染

○ごくまれに起こりうる症状

- ・硬膜外血腫による下肢麻痺
- ・硬膜外膿瘍
- ・全脊髄クモ膜下麻酔（意識消失、呼吸停止）
- ・カテーテル切断

5. 合併症を生じた場合の処置、安全管理

硬膜穿刺後頭痛に関しては、安静と水分摂取で経過観察しますが、改善がなければ追加治療のため総合病院への受診の必要性があることがあります。

硬膜外膿瘍や硬膜外血腫の発生時には、緊急手術が必要となる場合があります。

局所麻酔薬による中毒症状や、全脊髄クモ膜下麻酔による症状が生じた場合は、無痛分娩は中止し、気道確保を行い、治療を行いつつ、総合病院へ搬送となる場合があります。

6. 計画日程以外の分娩開始の対応に関して

原則は祝日を除く月曜日～金曜日の9時～17時が対応時間となります。左記日時以外での対応は原則不可となります。ただし、通常の無痛分娩（脊髄クモ膜下麻酔）は24時間対応しています。ご希望があればいつでもお声がけください。

7. 費用

硬膜外麻酔カテーテルを挿入するなど、麻酔処置を行った時点で費用が発生します。

通常の計画分娩の費用に加えて、12万円(2025年10月現在)となりますが、費用に関してご不明点等ありましたら、受付スタッフにお声掛けください。

お申し込みの前に、ご自身が東京都助成金の対象かどうか、よくご確認の上でお申込みください。

※硬膜外無痛分娩後に助成金対象外であった事が判明した場合、ご返金はできかねます。

※硬膜外無痛分娩中、母児の状態によっては、緊急で帝王切開術に移行する可能性があります。その際には、助成金の対象外となり、費用が変更となりますので、ご了承ください。

8. 質問の機会

ご不明点などございましたら、妊婦健診時にスタッフへお声がけください。

9. 同意の撤回について

硬膜外無痛分娩のご希望はいつでも撤回可能です。いつでも医療スタッフへお声がけください。

（希望は32週までとさせていただきます。）